

ひっつきむし図鑑

ここでは調査対象種とした18種のタネや実の形をくわしく紹介します。
あわせて、全体の形や葉の形、葉の付き方なども解説しますので、探すときの手がかりにしてください。
記述を正確にするために、「実」は果実、「タネ」は種子と表記します。

オナモミ類

オナモミ



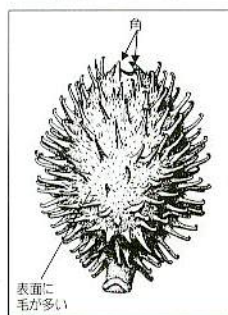
オナモミは古くからなじみのある雑草ですが、ほかは帰化植物です。衣服についた果実を取ろうとするとますます強くくっつくので「揉むな」という言葉が名前の語源と考えられています。それだけ強い付着力があり、マジックテープのヒントとなったともいわれています。

最近では、より強力な鉤つきのトゲを持ったオオオナモミがふえ、触ると痛いほどトゲの堅いイガオナモミも広がっています。また、まれにトゲオナモミが見つかっています。

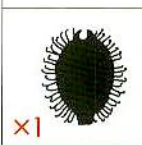
オナモミ類は、高さ1メートルほどになる1年草で、葉は大きく、先が大きく3つに分かれ、表面がザラつき、縁には不揃いなギザギザがあります。秋には茎の先に、長さ1~2センチの楕円体で、トゲに覆われた果実が集まってつき、2本の角が出ます。

識別のポイントは熟した果実の色や、果実の表面の形状、毛の多少などです。

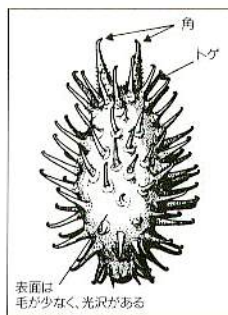
①オナモミ



果実は虫めがね（ルーペ）で見ると表面に細かな毛が生え、熟すと茶色になります。



②オオオナモミ

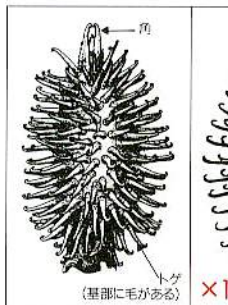


葉の柄や茎は紫色を帯びます。果実はオナモミに比べ細身で、表面は無毛か、細かな毛があっても少なく、光沢があり、熟すと茶色になります。



2本の角はオナモミより長く突き出ます。

③イガオナモミ



オオオナモミよりさらに大きな果実を付け、果実の表面や角やトゲには鱗片状の毛がたくさんあります。果実は熟すとオオオナモミよりさらに黒っぽく、焦げ茶色になります。

センダングサ類

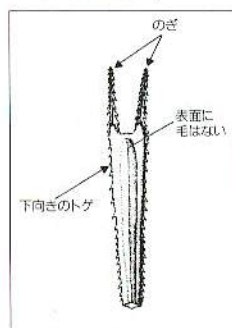
コセンダングサ



これもおなじみのひつつきむしで、冬にセーターを着て原っぱなどを歩き、後始末に困った経験をお持ちの方も多いと思います。果実が扁平でのぎが2本のタウコギ、果実の断面が四角くのぎが3、4本のセンダングサなどがあります。このほか湿原に生えるのぎが2本のホソバノセンダングサ、のぎが4本のヤナギタウコギ、果実の小さなエゾノタウコギなどがあります。アメリカセンダングサは1920年代に日本に入った帰化植物です。

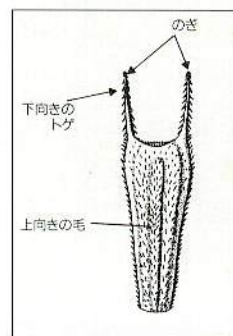
識別のポイントは果実の形、のぎの数、トゲや毛の生え方です。

④タウコギ



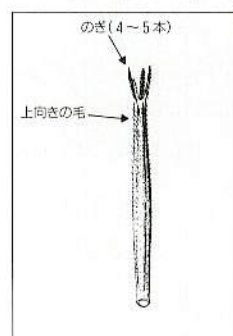
葉は3または5枚に分かれます。果実は長さ12~13ミリ、幅2~3ミリで、やや扁平です。果実の先に2本ののぎがあり、縁にはのぎとともに下向きトゲが並んでいます。

⑥アメリカセンダングサ(セイタカタウコギ)



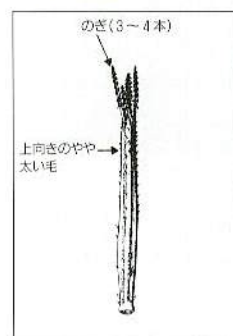
茎が紫色になる特徴があります。葉ははっきりとした柄を持ち、3または5枚に分かれます。花の集まりを長い総苞片そうほうへんが取り囲んでおり、これは本種とタウコギだけに見られる特徴です。果実は長さ7~8ミリ、幅2~3ミリで、先は2本ののぎがあります。全体に上向きの毛が生え、のぎには下向きのトゲが並んでいます。

⑥センダングサ



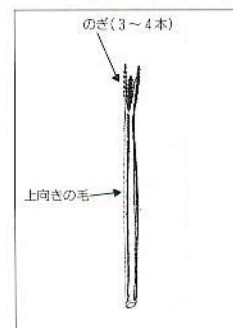
葉は細かく分かります。果実は長さ2センチ近くになる細長い四角柱で、のぎが4~5本出ます。全体に上向きの短い毛が生え、3ミリほどののぎには下向きのトゲが並んでいます。

⑦コセンダングサ



葉は3または5枚に分かれます。白い大きな花びらが出るものにはコシロノセンダングサやシロノセンダングサと呼ばれる変種があります。果実は長さ12~13ミリの細長い四角柱で、上向きのやや太い毛がまばらに生え、先端にはのぎが3、4本出て、そこには下向きのトゲが並んでいます。

⑧コバノセンダングサ



葉は細かく分かります。果実は長さ15~16ミリの細長い四角柱で、上向きの短い毛がまばらに生えます。下向きのトゲの並んだのぎが3、4本出ます。

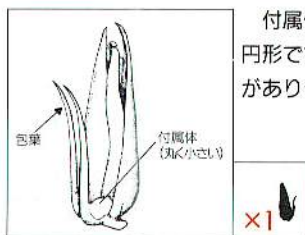
イノコズチ類

ヒナタイノコズチ



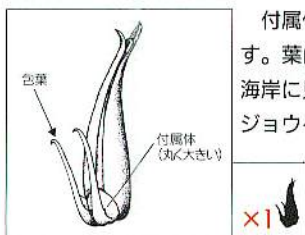
茎は切り口が四角形で、葉のつくところ(節)はふくらんでいます。果実は鳥のくちばし状で、長さ5~6ミリほど、茎の先に穂になってつきます。果実は5枚のがくで覆われ、その外側に2枚のトゲ状の包葉があります。この包葉の両側には膜質の付属体というものがあり、この大きさや形が識別の決め手のひとつです。トゲ状の包葉は外側に反り返り、動物の体にひっかかります。このほか沖縄県にはケイノコズチ、モンパイノコズチがあります。

⑨ヒナタイノコズチ



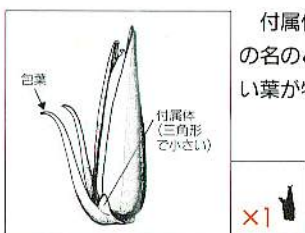
付属体は0.2~0.5ミリと小さく、円形です。葉は厚くて毛が多い特徴があります。

⑩ヒカゲイノコズチ



付属体は円形で0.6~0.8ミリです。葉は薄く毛はあまりありません。海岸に見られる毛のないものはハチジョウイノコズチと呼ばれます。

⑪ヤナギイノコズチ



付属体は小さく、三角形です。その名のとおり、ヤナギのような細長い葉が特徴です。

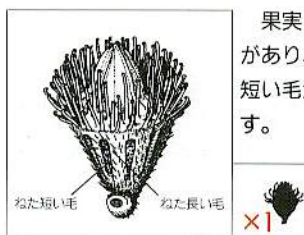
キンミズヒキ類

キンミズヒキ



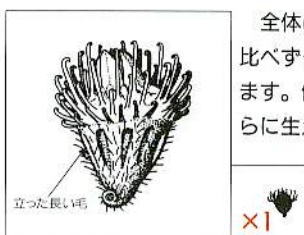
ミズヒキのように、小さな花が穂になって咲き、花が黄色なので、「金ミズヒキ」の名があります。果実の上部にはかき鉤のあるトゲが密生しています。識別のポイントは果実の大きさと、側面の毛の生え方です。

⑫キンミズヒキ



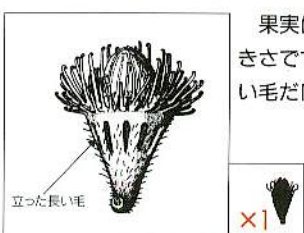
果実は円錐形です。側面に縦の筋があり、凸部には長い毛、凹部には短い毛が、上向きにねて生えています。

⑬ヒメキンミズヒキ



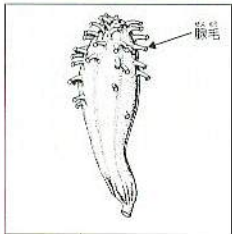
全体に小柄で、果実もミズヒキに比べずっと小さく、お椀形をしています。側面には立った長い毛がまばらに生えています。

⑭チョウセンキンミズヒキ



果実はキンミズヒキとほぼ同じ大きさですが、その側面には立った長い毛だけが生えています。

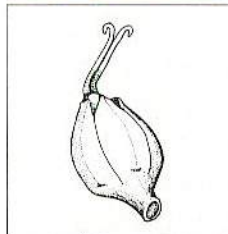
⑮ ノブキ



路に似た大きな丸い葉をつけますが、葉の柄にはヒレのような翼（よく）があるのが特徴です。果実は長さ5～8ミリの棍棒状で集ってつき、その上部には腺毛せんもうが生え、そこから出された粘着物でよく付着します。



⑰ ミズヒキ



赤い花が細長い茎に並んでいます。4枚の花被片のうち下方の1枚が白く、上と左右の花被片が赤いので、お祝い事に使う水引にみだてられました。果実は直径2～3ミリの球形で、雌しべの先に2ミリほどに伸びた2つの花柱の先端が鉤かぎになり引



かかります。葉に毛がほとんどないなどの特徴を持つシンミズヒキもミズヒキと同じようなところに生えており、果実もやや大型でそっくりです。分類学的にも近縁なので今回は区別せずに扱います。

⑯ ウマノミツバ



ミツバに似ていますが、葉の多くは5つに裂け、全体に大柄なため「馬のミツバ」の名があります。果実は鉤のあるトゲで被われた長さ3～4ミリの楕円体が2つ合わさったものです。長野県や山梨県にはまれにこれによく似たヤマナシウマノミツバ



が見られます。このほか日本には3種のウマノミツバ属の植物が見られますが、花の時期が初夏であったり、果実に鉤のあるトゲがなかったり、ごく短かったりするので、ウマノミツバとの相違は明らかです。

⑱ ハエドクソウ



便器に入るとウジがわからないことから蠅毒草の名があります。高さ60～70センチになり、葉は細長い卵形で対生します。花は茎の先端に長い穂をつくり、薄桃色です。3本のがく片の先端が黒色で、果実になると鉤状に曲がって硬くなり、動物の

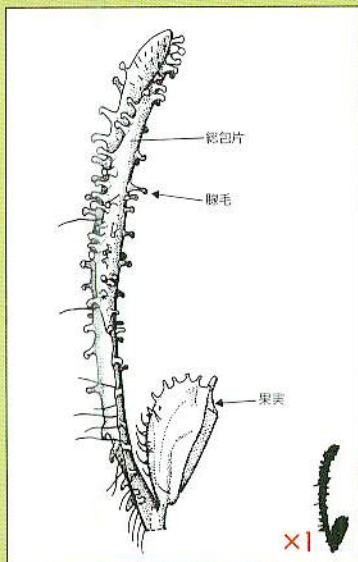


体によくつきます。ナガバハエドクソウは分類学的にも品種とされるほど近縁なので、今回は区別せずに調査します。果実はイノコズチに似ていますのでよく観察してください。

こんなのも見つかります

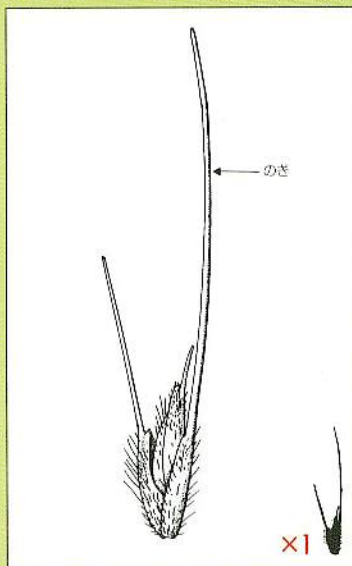
このほか代表的なひっつきむしにメナモミなどがあります。
ひっつきむしだけでは種類の見分けができないので
今回は調査対象としませんが、
主な特徴をあげますので、
調査対象種との違いを見分ける際の参考にしてください。
さらに市販の図鑑などで確認されるとよいでしょう。

メナモミ類



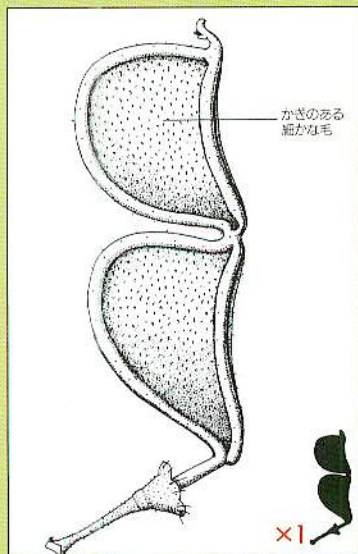
高さ1メートルほどになる1年草で、全体に毛の多いメナモミ、少ないコメナモミなどがあります。果実や種子に特殊な装置はありませんが、果実を取り囲む総苞片にはねばつく腺毛があり、果実のかたまりごと動物や人にくっつきます。河原や林縁などでよく見られます。

チチミザサ



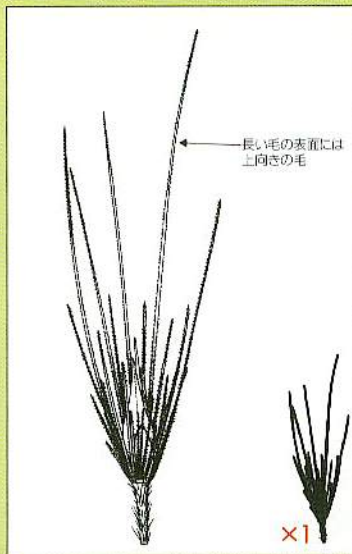
果実(小穂)は長さ3~4ミリで、長いのがあり、べとつきます。茎は地面をはい、高さはせいぜい20~30センチです。靴やズボンの裾など足元によくつきます。葉はササに似た形で縁が波を打つので、「縮みササ」の名があります。林内でよく見られます。

ヌスピトハギ類



多くは3枚一組の葉がつき、さやくびれがあって、眼鏡のような形をしています。果実の表面にかぎのある細かな毛があるので衣類によくつきます。代表的なひっつきむしで、日本には10種類以上あります。ヌスピトハギは草地や林縁によく見られます。

チカラシバ



高さ70~80センチほどの大きな株をつくり、丈夫な茎やブラシのような大きな穂が特徴です。果実の基部には長い毛が輪生し、この毛には上向きの毛が並び、動物の体や衣服に付着します。グラウンドや道ばたなど日当たりのよい環境によく群生します。